

## 盆花（ぼにばな）「ヒゴタイ」咲き始め！

～環境省カテゴリーで絶滅危惧種II類（VU）に指定されている稀少な花です～

かつて里山の草地は、人々により管理され固有の草花が咲きそろう豊かな草地でしたが、生活形態の変化等により徐々に手入れがされなくなり、雑草が生い茂りそれらの草花が姿を消そうとしています。

この様な中、当公園では、庄原市比和町三河内地区の「ヒゴタイの会」の保全活動の取り組みを尊重し、且つその活動を伝えていくため、平成24年10月に「ヒゴタイ種子の分譲依頼」を行い、平成25年7月に県立広島大学との共同研究により、育成した苗をひばの里内に定植し保全を行っているところです。

今回、稀少となった盆花（ぼにばな）「ヒゴタイ」が咲き始めました。

### ヒゴタイ開花状況（8/11 現在）

名称	開花情報	開花期間（見込み）	開花場所	株数
ヒゴタイ	咲き始め	8月中旬～下旬 ※見頃は8月下旬	ひばの里 田んぼ	5株

※最新の開花情報は国営備北丘陵公園 HP をご確認ください（<https://www.bihokupark.jp/cgi-hanajyoho/oview9.cgi>）



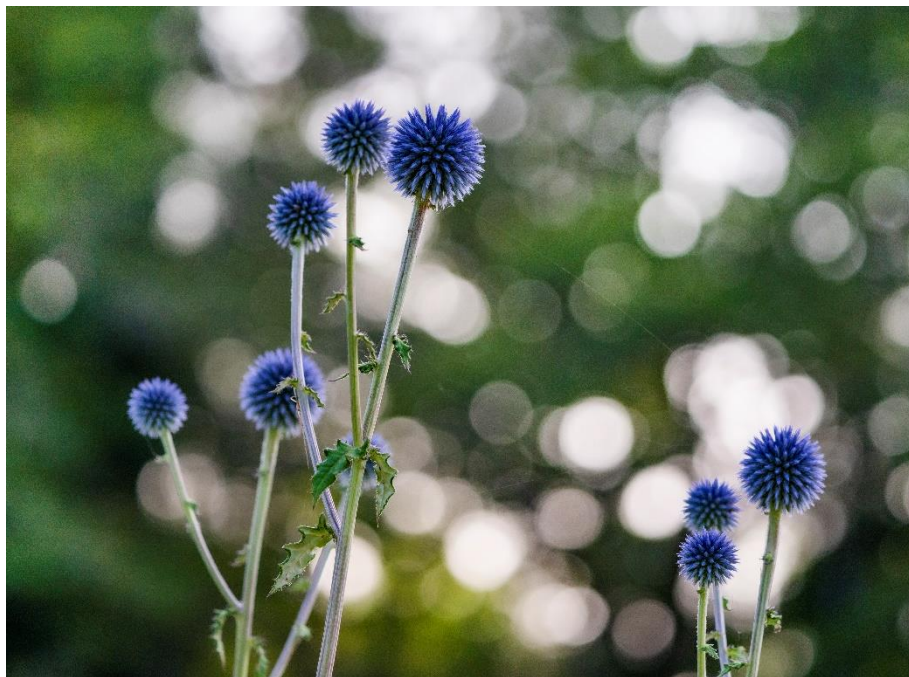
ひばの里「ヒゴタイ」の様子（2024年8月11日撮影）

## お問い合わせ先

国営備北丘陵公園

グリーンウインズ共同体 備北公園管理センター  
企画広報課 課長補佐 清水（しみず）

〒727-0021 広島県庄原市三日市町 4-10  
TEL：0824-72-7000 FAX：0824-72-7828  
メール：kikaku@bihoku-park.jp  
ホームページ： <https://www.bihokupark.jp>  
Instagram： <https://www.instagram.com/bihokupark/>



**ヒゴタイ**

キク科 ヒゴタイ属

球形で瑠璃色の花を咲かせます。備北地域では「盆花(ぼにばな)」と呼ばれ、お盆の時期に花を咲かせ、先祖の墓へ手向ける花として親しまれてきました。近年では、里山の草地の管理が不十分となり、絶滅危惧種Ⅱ類(VU)となっています。



見頃時期の「ヒゴタイ」の様子(2020年8月撮影)



ヒゴタイヒゴタイ

ヒゴタイ

学名：Echinops setifer  
 分類：合弁花類 キク科  
 環境省レッドデータ種：絶滅危惧Ⅱ類（VU）  
 統一カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類

ヒゴタイと公園の関わり

国営備北丘陵公園は、「中国地方の歴史や文化とのふれあい」を基本理念の一つに定め、中国地方の特徴である里山環境で育まれた歴史・伝統文化の保存、継承と、貴重な生物種を有する里山の多様な自然環境の保全・活用に取り組んでいます。  
 当公園は、伝統文化の継承としてヒゴタイを位置づける庄原市比和町三河内地区のヒゴタイの会の保全活動を尊重し、その活動を伝え、さらに、ヒゴタイを通して文化への理解、自然環境や植物の保全を啓発することにより備北地域の活性化に寄与するものと考えます。

平成二十四年十月、「ヒゴタイ種子の分譲依頼」をおこない、園内の公園利用者入場制限区域にて、肥培管理のもと、約二百株の発芽を確認しました。

平成二十五年六月、福島大学 兼子特任教授（現在は准教授）、ヒゴタイの会 藤原会長と園内生育適地の現地調査を実施し、同年7月、ひばの里に定植しました。

「ぼにばな」ヒゴタイ

お盆を迎え、先祖の墓へ手向ける草花を総称し「盆花」と呼び、庄原市比和町の三河内地区では、「ほんばな」が訛り「ぼにばな」と呼んでいます。ヒゴタイも「ぼにばな」として親しまれてきましたが、近年では草花の管理が不十分となり数が減少しています。

かつて里山にあった草地は、農家にとっては和牛の飼料資源を確保する大切な場でした。草地の草を鎌で刈り取ってその新鮮な野草を和牛に与えていたため、草地は適正に管理され、お盆の時期になると、オミナエシ・ツシモノウ・キキョウなどの草花が咲きそろい、草地は「ぼにばな」摘みのかっこうの場所となりました。

昭和三十二年から、耕運機などの農業用機械が普及するにつれ、和牛の役牛としての役割は薄らぎ、さらに、里山が薪炭林として持続的な利用もされなくなり、その結果、里山はすっかり荒廃してしまい、草地から草花が姿を消そうとしています。

ヒゴタイの会は、三河内地区 慶雲寺の「ぼにばなの咲く丘」で美しい花を咲かせるため、草刈、種取り、種まきなど精力的に活動されています。

自生地[庄原市比和町三河内]



ヒゴタイの花



ぼにばなの咲く丘



草刈り作業



播種作業

